

【講座名】先輩ママの出番です！ - 子育てサポーター育成講座 -

平成15年10月24日

子育て支援サークル等事例発表、グループ討議

『乳幼児の親とのかかわり方、若い親とのかかわり方』

アドバイザー 菅原ますみ氏（お茶の水女子大学助教授）

< 主な内容 >

事例発表 < 1 > 子育て支援サークルばお 武田さん

2001年にグループを作りました。地域で活動しているPTAや学習会で知り合った仲間たちが、何か若いお母さん方の支援ができないかということで、5人で立ち上げました。現在のメンバーは5人、活動主旨に賛同してくださるサポーターさんが6人、合計11名で活動しています。

活動するにあたり、心に留める三つの柱を決めました。

「温かい眼差し」、「見守る心」、「共感する心」です。

子育て支援はお母さん支援ですが、私たちは専門家ではありません。近所のエプロンおばさんのような立場として、子育ての先輩として、お母さんたちに自然に接していけたら良いなという気持ちが一つと、お母さんたちの悩みを解決してあげるのではなく、お母さんたちの話の聞き役になろうという気持ちで活動しています。

具体的には、2001年10月から杉並区で「ゆうキッズ事業」が始まりましたので、ゆうキッズの時間内に一緒に活動していきましようということになり、現在火曜日から金曜日のサークルの時間に加わったり、ゆうキッズの時間内の1時まで、お母さんやお子さんと一緒に過ごしています。自然な世間話の中からいろいろな相談事が出てくるようになっていきます。特に多いのは、「健康診断に行って保健婦の方にこんなことを言われたけれどどうしよう」というものですが、最近は保健センターの方たちともネットができましたので、問い合わせをしたり、館長先生にも見守っていただくようにお話できるパイプも出来ました。

今年の9月からは、堀ノ内東児童館でも活動を始めました。そこでは、「赤ちゃんタイム」で活動をしています。今年の4月以降に生まれた赤ちゃんばかりの会ですが、お母さんたちと色々なお話をしたり、サポートをしています。相談された時には、自然な形で、お母さんが、これからどうしたらいいかを自分で決められるようなサポートを心がけています。

日常の中では雑談を通して、話し相手になったり、二人以上のお子さんを連れていくときなどは一人をちょっと見ていて差し上げたり、そういう普通の見守りという形をとっています。

最近は健診の時に言われたこととか、これから復職するが、その時の子どもの預け先が心配だ等、相談も結構増えていますので、そういう時は保健センターや保育園の先生に相談するように繋いだりもしています。そして、お母さん

たちがほっとできて、ここに自分のことを分かってくれる人がいて、何かあったときに相談できるという、そういう場所作りができるように心がけて活動をしています。

活動メンバーが5人ととても少なく、活動場所は広がってきていますので、もう少しメンバーを増やしたいと考えています。私たちの主たる活動ではありませんが、高井戸児童館では、中学生と幼児の触れ合い事業を実施しており、そのお手伝いもしています。これには厚生労働省の取材が入り、来年度高井戸児童館と富士見丘中学との取り組みがビデオになって全国の児童館に配られる計画とのことで、素晴らしいと思うのですが、このような活動が杉並区全体に広がったらいいなと願っております。

## 事例発表< 2 > かるがもサークル 小高さん

「かるがもサークル」は2000年11月に発足しました。

ホームページで、「杉並区に住んでいるお母さんへ。私は昭和45年生まれですが、2000年6月29日に子どもが生まれました。同じ位のお子さんがいるお母さんで一緒にサークルを作る気がある方はいませんか」と呼びかけたら、10名くらいから一緒にやりましょうという返事があり、その中で、気が合いそうなお母さんを見つけて、11月から活動を始めたのです。かるがもサークルの会員は杉並区全域に広がり、あっという間に会員が50人60人と増え、そして3年後には200人弱の会員になり、収拾がつかないような状態になってきています。

かるがもサークルの子育てのモットーは“長屋教育”です。みんなで子どもを育てていこうということと、子どもを育てる環境をもう一度見直さなくてはいけないということで、最近は区役所や杉並警察、環境課や防犯課の方たちともいろいろお話をしています。

このサークルを作って本当に良かったと私が思うことは、200人弱のお母さんの中でも、たとえば「虐待をしてしまってどうしよう」とか、「もしこのサークルと出会えなかったらパパと離婚していたかもしれない」、あるいは「子どもを殺していたかもしれない」という本音も出てきて、そういうことを聞く度に、（仕事をして自分の家のことをしてサークルのこともやっていると、眠る時間が今毎日3時間ですが）、この会をやって良かったなと思います。また最初は安易な気持ちで自分たちが楽しければいいという感じで始めましたが、これからは地域の中で、私たちかるがもサークルがどのように「ずうずうしく」、「正しいこと」を「堂々」とやっていけるかということを考えなくてはいけないと思っています。

今一番やりたいのは、お年寄りとの関わりです。皆さんもそうだと思いますが、私たちも親の話は素直に聞けないけれども、他人となると素直に聞ける耳を持てたりします。子育ての仕方も昔とはいろいろ違っているところはたくさんあると思いますが、人への優しさとかマナーとか、変わらずに引き継いでいかななくてはいけないことがたくさんあると思います。子どもたちのためだけではなくて、私たち母親のためにもお年寄りとどう関わっていくか。本当に関わ

りを持ちたいと思っています。

この間縁あって、区長にもお会いし、区長には、杉並区のホームページにサークルを検索できるページをぜひ作ってもらいたいとお願いをしました。頑張っているのは私たちだけではなくて、皆さんみたいに頑張っているお母さんがたくさんいますし、お年寄りでも何か活動しようと思って頑張ってる人がたくさんいるので、そういうものをもっと広く知ってもらうことが必要だと思うんです。それをどう知らしめるかという部分で、区が積極的に関わってくればというお話をしました。

インターネットを使っていて、私が便利だなと思うことは、虐待をしている人や引きこもりという問題を抱えている人たちは、なかなか児童館にも行かないし、保健センターに行くことも少ないというように、人と関わるのが苦手ですが、インターネットというのは文字の世界なので、人と関わらなくても見ることができんです。入ることもできる。それをきっかけに、こんな楽しいことをしているサークルなら大丈夫かなとか、ここだったら自分を受け入れてくれるかもしれないと思ってもらえるきっかけになればいいと思います。人と関わるのが苦手な人をうまく引き出せる一つのアイテムにならないかということも考えて、ホームページを常ににぎやかにしようと思っています。

### 事例発表<3> 母親クラブ・ヤングミセスの会 原田さん

永福南児童館で活動をしています。

母親クラブの活動資金は、区からの補助金と私たち会員の会費（一年間で600円）です。活動には、児童館との共催事業と私たちが直接主催する事業があります。区公認のクラブなので、毎年予算書・会員名簿・活動予定表・決算書・事業報告書を提出します。

現在児童館との共催事業として、「子ども祭り」があります。子どもたちがお店屋さんになって自分たちで作った物を売ったり、自分たちで考案したくじ引きを金券を持って来てくれた子どもに対して売ったり、遊ばせたりするという催し物です。母親クラブは、パンケーキ屋さんを作りまして、子どもにも大人にもバナナパンケーキチョコチップかけを一枚ずつ差し上げるということをやっています。

その他12月中に「もちつき大会」があります。調理を私たちがやっています。

独自の事業としては、お料理教室とか手芸教室があります。資金の苦労はありましたが、今年は「アルプスのハイジの国のコンサート」といって、アルプホルンの演奏会がありました。ただ聞くだけではなく、みんなも参加できるものということで企画したのですが、すごい盛り上がりになって、とても良かったなと思っています。

去年までは4歳、1歳、2歳児の各グループを作りまして、その中でリーダーさんサブリーダーさんを決めていただいて、そのグループに予算を割り振ったり、こんな活動したらいいのではないですかと相談役になったりしました。そのお母さん方が参加できる催し物を考えることもしましたが、補助金が減額

になり、活動費が足りませんので会費を値上げして補いたいと思い、提案したら拒否されてしまったんです。やはり世の中が変わってきたんだなとふつつつと感じたんですが、年間600円でも出したくないという感じでした。さらにリーダーとかサブリーダーを決めたり、出欠を取ったりするのは、すごく束縛されるように感じるとおっしゃる。これは数年前からの動きですが、リーダーさんが何か提案しても、こんなのは嫌だと言う。それでは、どうしたらいいですかと聞き返しても、誰も答えない。一生懸命やっても空回りになるというか、そういう空気が強まってきました。固定のグループがあると新しく入ってくるお母様方が入りづらい等の声もありまして、今年からは、幼児のグループは児童館にお任せすることになりました。

先ほどインターネットのお話をされましたが、やはり若い人たちは、そういった道具を上手に使いこなしておられるし、動きやすいのですね。毎週何曜日の何時に、ここに集合、というのは嫌なのかなと思う。私たちのクラブは今、曲がり角なんです。これからどういう方向にゆくか、ちょっと見通しが立っていません。現実に合わせて、もっと変わらなくてはいけないのではと思っています。

司会：かるがもサークルさんも、ぱおさんも、自分たちでグループを作って活動を始める時に、行政とどういうふうにつき合えばいいのか、あるいは活動の場を求める上でとてもご苦労をなさっています。それに比べて、「母親クラブはどうして最初から児童館に居るの？」というのが多くの方の疑問のようです。そのあたりのいきさつが分かるように補足してください。

母親クラブ連絡会会長：母親クラブは全国的な活動団体で21万人以上の会員を擁し、非常に歴史があります。国の施策により始まった、主に児童館を活動拠点とする地域の母親の活動です。杉並区の母親クラブは15年度現在17クラブあります。児童館が41館あるうちに17クラブありまして、そのクラブを取りまとめる杉並区母親クラブ連絡会があります。国庫補助がありまして、国と都と市区町村等から3分の1ずつの補助です。東京都はこれを打ち切りましたので、本来は私共のクラブに対する補助金もゼロになるところでしたが、杉並区は当初より母親クラブ活動に力を入れてくださっていますので、杉並区独自で補助金を出していただいています。地域で本当に地味にかつ地道に、児童館と共に活動しています。

## フリートーク

小高さん：心から子どものためにという気持ちがあったら、時間も費やせる。多少の労働時間も、たとえばホームページを作るとか、今日配った資料も、細かいことを言ったら、印刷代も紙代もとなりますが、かるがもサークルを皆さんに分かって貰いたいという気持ちだから、できたと思うんですね。

私たちは、「来るものは拒まず去るもの追わず」です。やりたい人が勝手に

来て参加してもらおうという感じです。毎回会費制です。だから、今月はちょっと支払いが多くて参加できないから止めますという人もいるだろうし、その辺が克明に毎月インターネットを通して分かってもらえるので、無理に参加しなくても良いし、自分が参加できるかできないかというのも判断できると思います。

法人格を持つように申請しようかという声もありますが、うちのサークルには、予算書を出したり集計したり出来る人がいないので、結局やめることにしました。その都度自分のお財布と相談しながら、参加するしないを選ぶのがいいのかなと思います。年間600円はたいしたお金じゃないと私は思うし、多分うちのサークルはもっとかかっています。

原田さん：私の場合には、地域で活動している時は自分の子はちょっと置いておいて、という時もありましたね。「自分の子だけ」と思っているお母さん方には、私たちのような活動は続かないのかもしれないね。自分の子だけでなく、地域の他の子も良くならなきゃ意味がないと思うのですが。

参加者Aさん：支援活動を、かるがもさんのように自分たちで盛り上げて、今必要なことが何かということ自分たちで考えて活動をしていける場合と、母親クラブのように、常に地域の子どもたち、地域の親子に対して子育て支援を安定供給していくというのが求められている、そういう活動をしていかななくてはいけないというグループもあるということです。

武田さん：今ボランティアの空洞化というか、真ん中がないんです。若いお母さんたちのグループを育てようと思って、私は新宿でもボランティアを一生懸命やっていますが、お母さん達はお子さんが幼稚園に入る時期にグループをやめていってしまう。それはなぜかということ、コミュニケーションする場が、そちらの方に移ってしまうから必要性がなくなるということが一つ。もう一つは、それぐらいになるとお母さんも仕事を再開する方が多いようです。仕事を始める方が半分、後の残られている方は地域のことや、PTA活動等、あるいは思った以上に専業主婦が忙しくて、なかなかボランティアする時間がないのも現実です。

私たちも若いお母さんたちに、ぜひ活動を通じて、自分にとっての素朴な心の潤いになるようなものを感じて貰いたいと思って、お勧めはしますが、今おっしゃられたように、若い人は自分から何かを求めていくのは得意ですが、何かをなさいと言われてたり、今までのことを引き継ぎなさいというのを窮屈に感じてしまう、そういう傾向があるので、すでにある場所へ入って行きたがらないと感じます。

ごく限られた、余力のあるお母さんたちに、どうやってボランティアに参加していただくのか、ぱおにも、ちょっと先輩の、小学生くらいのお子さんを持ったお母さんに入っていただきたいと思うのですが、なかなか人材が集まり

ません。その辺のところを考えていかななくてはいけないと思うし、何かやりたいと思っていても、何があるのかが分からないというのもあると思います。区民センターのようなところへ問い合わせせても、「そういう活動は分からないですね」と言われてしまいます。

小高さん：区役所に電話をかけて、「ママさんサークルのようなものはないですか？」と聞いたのですが、はっきり分からないのです。ちゃんと紹介してくれないというか。でも区長にお会いした時に、もっと杉並区の中で頑張っているサークルとかボランティアやってる人達の紹介ページをちゃんと作って欲しいということを訴えてきました。私は探す術がなかったのと、自分がやりたがり屋やだったので、作っちゃえて作っちゃいましたけれど。

武田さん：今話を聞いていて、「ああ、こういう方達もいるんだ」ということが分かって良かったです。だから、今度は私たちがネットワークを作って、人に言われるのは嫌でも、やりたいことがあれば一緒に活動していくことは可能なことだと思うので、今日のような集まりは貴重だと思うし、そういうボランティアができる人材を養成する機会を作って、もっと区の中でPRしていただきたいと思います。

菅原ますみ氏：一つには子どもの発達によって、ニーズがいろいろ変わってくるということがありますね。例えば小学生の子どもがいる母親には、その母親なりのニーズがあって、それは赤ちゃんの時とずいぶん違うという気がします。ですから、ひとつ考えなくてはいけないのは、それぞれの発達段階でニーズがどういうふうに変わっていくか、全体を見通した上で用意されていると一番良いと思います。

家族支援の仕事をさせていただく時、いつも思うのですが、行政と、この母親クラブのように、伝統的で組織のノウハウも持っているところがあります。また、かるがもさんのように、新しいニーズとマッチングしてなさっているところもある。この両者がうまくネットワーキングされていると、すごく効率がいいです。

また、区役所に行っても情報がなかったという話が出ましたが、それは問題ですね。ネットワーキングがあって、一方で行政はきちんと情報を持っていること。そして、たとえば児童館で何かお知らせがあったら、各ホームページに流してもらおうとか、そういうことも大切ですね。全体としてうまくリンクしてゆくことが必要です。行政が硬くなるのは仕方が無いし、それもある意味では必要だと思います。行政は全体の動きを見て、どういうふうに地域の子育てを保障していくかという視点も必要ですので、長期的な見通しを持って、予算も確保しなくてはいけないですよ。

そして、さまざまな機能を備えたグループがあり、それらが緩やかにネットワークを作っていて、利用者側はニーズに合わせて、いろいろなところにアク

セスしていく。行政のサービスももちろん利用できるし、自主的なグループにも、気が合うところであれば出入りできる。そういう枠組みが用意されていると、とても素敵だと思います。

かるがもさんのように、子育ての渦中にある人達の、（私たちの用語で言いますと、“ピアグループ”、“ピアサポート”）、同年代の同じ境遇にある人達がサポートし合うという、ピアサポート・グループがたくさん生まれていています。

また、今日の講座のように、行政が連絡してくださって、様々なレベルの人達が集って情報交換をすることも重要ですね。その中で、この地域には、こんな資源があって、こんな人たちがいるということ、つまり個人の顔が見えてくる訳ですね。あの人たちならば、これができるって分かりますよね。そういう意味では行政の役割は大きいのではないのでしょうか。

もう一つ、心理学の立場では、会員同士のネットワーキング自体もそうですが、やはり結局は人間関係がうまくゆくかゆかないか、そこが大きな課題だと思います。今日お話をいただいた三つのグループは、それぞれ、そういったところが工夫されていていい感じで活動されていると感じました。たとえば、すごくいいなと思ったのは、会員の自主性を大事にしていて、お説教型にならないというのでしょうか、お互いが聞き役であり、お互いに必要なサポートをさりげなく差し上げている。これはカウンセリングの基本です。マネージメントを担当する運営側の人たちは、そういう専門家の知恵がありますので、どんなふうに人の話を聞いてあげればよいのかが分かっています。まず最初は、「ああ、困っているんだね...」といった言い方で共感してあげて、信頼関係を作った上で、だんだん深い問題に対応してゆくようにするといったやり方です。

たくさんの方が集まって何かをするような時には、人間関係をいかにうまくやっていくかというノウハウが必要です。また、深刻な問題が出てきた時、どうやって専門家に繋げるのか、繋げ先を用意しておくことも大切です。マネージャー研修というか、行政が講習会を開くことも大事だと思います。蓄積した知恵を生かすということと、あるいは、組織を運営する人をどう育てていくか、これは大きな課題だと思います。ただ、ひとつ心配なのは、一生懸命やっていらっしゃる方が“バーンアウト”と言いますが、燃え尽きちゃうこと。お仕事もあり、子育てもあり、何よりも自分の家庭がある訳ですね。バーンアウトしないでもできる適度な運営集団をどうやって作っていくかが求められていると思います。

参加者Bさん：杉並区の子育てはいったいどういうものかということをお調べしました。調べていくうちに、児童課と保育課というのがありまして、机は隣同士ですが、何かをしたいというと「あっち行け」、「こっち行け」と言われます。先ほど窓口で聞いても情報が分からないという話がありましたが、これでは当然だなと思いました。お母さんはみんな不安を抱えていますよね。それなのに、あちこち廻されると「それなら、もういいわよ」となっちゃうんです。

一覧表を作って欲しいです。児童課でも保育課でもどちらでもいいですから、こうしたいということに対してはここに聞けばよいということを一枚の一覧表にまとめたものです。どこかに貼って置けるような一覧表があれば安心できるのではないかと思いました。

参加者Cさん：私は母親クラブで“ママのティータイム”という、その曜日に来ればママ達はコーヒーが飲めるよ、という活動をやっています。ただコーヒーを出しているだけなんです。メンバーの悩みは「今日は元気そうだね」、「大きくなったね」、「歩けるようになったね」といった程度のことなら、気楽に声をかけられるが、もう一步踏み込んだことを聞きたいとか、言いたいという時になかなか言い出せないこと。そういう話をする若人達は、エプロンつけてあそこにいる私たちのことを胡散臭く思っているかもしれない、お茶なんか出してくれなくていいから、そっちの方で黙っていてよと思っているかもしれない、と毎回疑心暗鬼に陥りますが、継続できるように頑張っています。

司会者：このようにして、地域の知っている人の顔が少しずつ増えていくということが、お互いの安心感に繋がっていくのだと信じたいですね。そして、若いお母さんに「私たちだって先輩のお母さんたちに出会いたいと思っているのです」と言われると、とても大きな励みになる。これからもどんどん、子育て支援をしたいと思う人たち、子育て支援を受けたいと思う人たち、あるいは自分たちで何とかしようと思っている人たちが出会う場が、少しでも多くできるといいと思います。